

2011 年 3 月

新潟市テニス協会
会長 前田 奉司

第 8 回日露親善テニス交流会を振り返って

3 月 9 日、空港にまで送りに来てくれたテニスマン達との別れ、交流会の思い出と感激を一杯胸にして真っ青な青空の中、ハバロフスクの空港を飛び立った。この感激を忘れないうちにとの思いで、機内でメモを認めている。

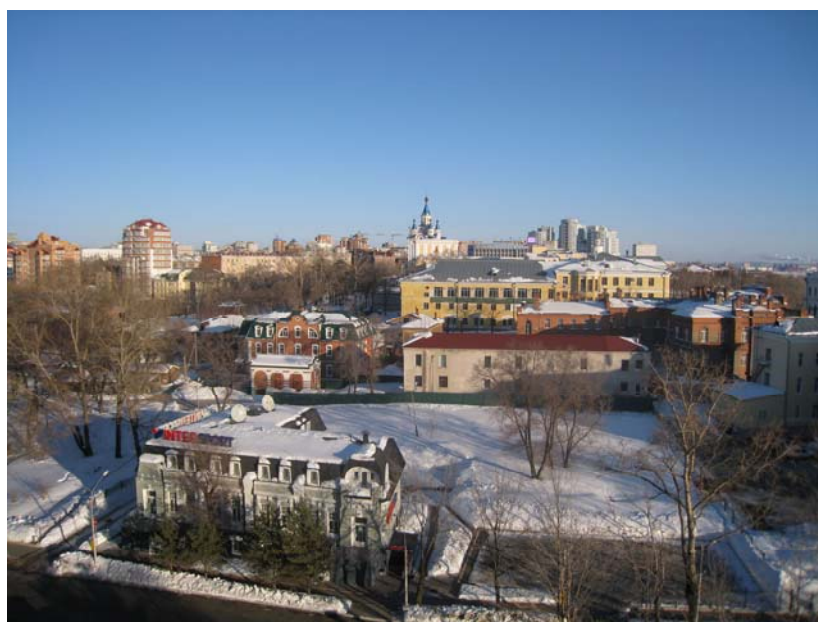
空港に来れなかったバイコヴァさんやその他の関係者からは、何人も出発前に電話で別れを惜しんでくれ、日本の皆さんは満足してくれただろうか？との問い合わせがあった・・・。

これまで毎年夏に、この大会を実施してきたが、今回は航空便の関係もあり 3 月 8 日の国際婦人デーに合わせて交流会を行うことになった。

日本人にとっては、3 月のロシアはなんと言ってもまだ寒さが厳しいという恐れが先に出てくるであろうと考えられた。

一方、ロシア人の 3 月 8 日の国際婦人デー(女性の日)に対する思い入れを知る自分にとっては、この日に合わせたトーナメントは大変面白い企画であること、3 月のハバロフスクの素晴らしさを日本のテニスプレーヤーに楽しんでもらうよい機会であると考えた。

結果として、この時期に女性の日を記念した大会を催し、日本から参加したことに対してロシア側、特に女性軍から大歓迎を受けることになり素晴らしい冬景色を堪能してもらうことも出来た。



女性の日を祝う女性同士の交換会：

ハバロフスクの女性連盟会長のメシコヴァさんは、テニス連盟の副会長も勤め、交流会の前日女性同士の交歓のための茶話会に呼んでくれ、ロシア側女性軍が多数参加し、日本からの3名の女性を歓迎してくれた。

各人が自分で作ったクレープ類（ブリヌイ）を沢山準備してくれ、ご馳走になり、お互いに女性の活について話し合った。我々男性もそのおこぼれに預かった。

この日は、ロシアの宗教上のマースレンイツァという行事で冬を見送り春を迎えるためにブリヌイをお腹いっぱい食べて、その後ポリショイポストというロシア正教の行事で3月7日ー4月24日の間できるだけ贅沢なものは食べないという習慣がある。今回その行事にあわせて婦人連盟が茶話会を催してくれて、楽しい会話が弾みあまりにもおいしかったので皆食べ過ぎて、その日に予定していたレストランでの夕食はキャンセルし、夜のテニス練習会に参加することになった。



大会当日、外はマイナス10度であったが、大会会場内は半ズボンでも汗が出るほどの暖かさであった。大会には高橋総領事にもご参加頂き、日ロ双方からの参加者で国際ミックスチームを結成し、友好的な雰囲気の中で厳しいゲームが繰り広げられ、ロシア側参加者の一球々勝負に対する執念とナイスショットが決まったときの喜び表現と、失敗したときの悔しがり方が日本人とは違い体全体で表すような表現で面白かった。

日本からの参加者はロシア側のパートナーと組み、夫々の試合で中身の濃いゲームが繰り広げられた。

決勝戦では手に汗を握るシーソーゲームでタイブレークまでもつれ込んだ。

最終的にミロシニチェンコ・石井組が頑張って優勝した。素晴らしい試合であった。



これまでの8回の日ロ交流テニス大会を通じて常に試合ボールを提供し、サポートして頂いたDANLOP社の協力にも感謝したい。

2日間の大会を終えて、夜の交換会では、緊張した雰囲気の大大会とは一転してはじける様な友好的な雰囲気の中でお互いのパートナーを讃え、健闘を祝い合い、ウオッカの乾杯が続いた。



文化プログラム：

大会初日の夜、現地の芸術家たちが芸術博物館の一室を借り切った夕べに集まってくれ、すばらしい交換会を催してくれた。

この夕べを組織するにあたり、無料ですばらしい会場を提供してくれた歴史博物館館長、すべてを取り仕切ってくれた有川さん、すばらしい歌を披露してくれたオペラ歌手のジボエードフさん、有名なピアニストのブートニコフさん、コサック合唱団リーダー、素敵な民族舞踊を満喫させてくれたバイコーヴァさん達に心よりお礼を申し上げたい。

又、高橋総領事の素晴らしい喉も聞かせて頂いた。日本から参加された方々にロシアの芸術の素晴らしさの一端を味わって頂くことができたと思う。



最後の締めくくりとして、3月8日女性の日には高橋総領事がロシアの女性テニスプレーヤー代表と日本の女性をハバロフスクの最高級レストランに招待して頂き、我々男性軍もお相伴に預かった。素晴らしい交換会を催していただき、心より感謝申し上げたい。



至る所で心のこもった歓迎を受け、その感激を胸に帰国した直後に起こった東日本大震災、先ず被災された方々に心より哀悼の意を表したい。

その直後からロシアのテニス関係者を含めて多数の友人から日本のテニス関係者に問題はなかったか、もし自分たちに援助できる事があれば何でも連絡して欲しい、もし避難する場合は何時でも何人でも受け入れること、ロシア国民として日本人が遅しく、この困難を乗り越えて復興することを心より祈っている事を日本の皆様に伝えて欲しいとの依頼が毎日のように続いた。

全てを超越して人間として日本国民のことを心配し、復興を願ってくれているこれらのすばらしい友人達の篤い志を胸に、東北地方の一日も早い復興を願いつつ筆をおくことにしたい。